

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2672600117
法人名	社会福祉法人 空心福祉会
事業所名	グループホームえるむ
所在地	〒620-0000 京都府福知山市宇天田小字大塚14-1 (電話)0773-24-2256

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年5月27日
評価確定日	平成20年8月29日

## 【情報提供票より】(平成20年5月27日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 12年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	10 人
利用定員数計	9 人
常勤	7人, 非常勤 2人, 常勤換算 9.1人

### (2)建物概要

建物構造	木造亜鉛メッキ鋼板葺平屋建 造り
	1階建ての 階 ~ 1階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1,300円/日	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	有りの場合	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円) 無	償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,380	円	

### (4)利用者の概要(5月27日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.2歳	最低	78歳	最高	91歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	大西内科医院、ヒガシ整形外科クリニック、久世歯科、篠尾医院、昭和町吉見歯科医院
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

福知山の南東,周辺に大学や高等学校を擁する緑豊かな環境に立地したホームです。地域福祉を熱い思いで展開する法人の「かたよらない心・こだわらない心・とられない心」の理念をもとに、福知山でのグループホームの先陣を切りスタートしました。家族・地域との繋がりを重視し、より開かれたグループホームを目指しています。入居者の思いを形にし、希望にそって日々の暮らしがあるように支援をしています。花を求めて、桜に始まり牡丹や藤と、行きたい所の希望が出され、誘い合っの外出となる場合が多く、頻繁に出掛けています。毎年日帰り旅行も企画し、実行しています。法人との連携も密で、またホームでは週2回認知症対応型通所介護を行っています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を職員間で共有し、更なる発展と受け止め取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はその必要性を職員間で話し合い、具体的な内容を職員に聞きながら管理者がまとめました。自己評価の中から生じた改善部分をシートに記載し、全職員で改善に臨んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	福知山市保健福祉部次長、高齢福祉課の課長、民生児童委員、入居者家族、施設長、法人本部事務局長、生活相談員が出席して2ヶ月に1度行われています。福祉サービス目標の進捗状況が報告され意見交換が行われています。会議の中からホームの行事への支援等が提案され、そば打ち大会が実現したりしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪は多く、来られた時や電話で直接意見や不満、苦情を聞くようにしており、年に一度満足度調査を行っています。出された意見や苦情の対応は直接本人・家族に伝えるとともに、広報などで公開しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	保育園児から花が届き、幼稚園の運動会、小学校の参観日や文化祭への招待があります。また市の福祉祭りや老人、障害者福祉協議会の行事に出展の機会もあり地域の交流の場となっています。また法人の納涼花火大会にはボランティアの協力と共に多くの参加があり地域に密着した行事として定着しつつあります。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念の「かたよらない心・こだわらない心・とられない心」を大切に、ホームとして地域社会の一員としてのその人らしい生活を支援していく事を掲げています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念に基づき、年間のサービス目標・取り組みを、利用者をはじめ、来訪者に目につくように掲示しています。年間の活動計画は、月毎に目標が設定され月末に達成度が様々な事例と共に職員会議で報告されています。代表者会議で報告・評価され、評価責任者を通じて職員に周知し日々の実践に生かされています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育園児から花が届いたり、幼稚園の運動会、小学校の参観日や文化祭への招待があります。また市の福祉祭りや老人、障害者福祉協議会の行事に出展の機会もあり地域の交流の場となっています。また法人の納涼花火大会にはボランティアの協力と共に地域住民等、多くの参加があり地域に密着した行事として定着しつつあります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について職員間で話し合い理解を深めて、自己評価については職員に意見を聞きながら管理者が検討しながら作り上げています。評価結果については更なる発展と受け止め職員間で話し合い情報の共有を図っています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	福知山市保健福祉部次長、高齢福祉課の課長、民生児童委員、入居者家族と職員や法人管理者が出席し2ヶ月に一度行われています。ホームの取り組み状況、行事、事故、外出、研修ときめ細かく報告され意見交換がなされています。会議の中から行事に繋がったりする事例も出てきています。		

グループホームえるむ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から運営推進会議への出席もあり、市とのかかわりが深い現状にあります。市の主催するケアマネジャー会議に参加し利用者の状況説明などもしています。また市主催の福祉祭りや生涯学習フェスティバル、音楽祭に参加したり、行事や企画を共に行うなど合同での取り組みが共になされています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族は、遠方の方でも月に1度の面会があり、来訪時には写真を見て貰ったり、こまめに利用者の様子を報告し、不定期ではありますが封書で個人の様子をお便りにして送っています。個別の出納については請求書と共に毎月送付しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	敬老式典・納涼大会・面会時に交流をもつようにし、職員に直接意見が言えるような関係作りに努めるとともに、利用者満足度アンケート調査を毎年行い、意見の収集を図っています。出てきた意見・要望は日誌に記録し職員間で共有するとともに、家族に直接返し広報にもすべての苦情を記載し、運営に反映させています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職や異動は出来る限り抑えるよう努力しており、職員の交代時には出来る限り引き継ぎを行うようにしています。新しい職員には、出来る限り利用者の情報を伝達できるよう配慮しています。また、職員のストレスが溜まらないように、旅行・懇親会・ボーリング・バレーボール大会など福利厚生も充実しています。管理者による個別のヒアリングの機会も設けています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修計画が策定されており、職員は段階的に研修を受けるシステムがあります。また、部署内研修や外部研修も積極的に受けるよう案内がなされ、出来るだけの参加が促されています。伝達研修はされていませんが、提出された報告書と資料を見る事により職員間で共有するよう努めています。	○	報告書の確認のみに終わらず、職員会議などで伝達研修をし職員全体で内容の共有を図ることが期待されます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	府内のグループホーム連絡会主催の年4回の勉強会や交換研修に参加しています。交換研修は2回程ありましたが受け入れはかなり頻繁にされています。交流を図ることでよりサービス向上につなげています。		

グループホームえるむ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と共に見学されることを勧めています。出来るだけ複数回の見学で納得がいった入居に繋げ、家族の協力を得ながらの支援を行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の生活すべてが支え合う関係に繋がっており、掃除から始まり、入居者と職員が相談しつつ行う買い物や畑仕事、食事の支度・後片付けなど一緒にやりながら過ごしています。職員は梅干し、漬物あるいは干し柿等の作り方を入居者に教えられながら共に作業にあたっています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から入居者の思いをくみ取り、サービス担当者会議で話し合いを持ち生活支援記録に落とし込み、職員間で共有するように努めています。記録された思いはセンター方式の活用に組み込みつつ入居者本位の支援に役立てています。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃から本人や家族の意見や思いを聞き出し、反映させつつ担当者やケアマネジャー、職員の意見も踏まえ個々に合わせた介護計画が立てられています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	頻繁にモニタリングが行われ、3か月に一度ケアマネジャーを中心に項目ごとに評価をしています。また、家族・利用者の要望を聞き、職員、ケアマネジャー参加でサービス担当者会議を開き、見直しに繋がっています。欠席者にはサインによる確認をし情報を共有しています。		

グループホームえるむ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者の様々なニーズに応え多くの支援を行っています。通院や理美容院への送迎をはじめ、急な外泊やお墓参り、習い事など利用者の思いを受け止めながら柔軟な対応がなされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望する医療機関を利用できるよう支援していますが、母体の施設に土、日曜日と法人専属の医師の往診があり、そこまで行って診察を受けている利用者もおられます。雨の時や熱などの体調不良の場合は、医師がホームまで往診に来てくれます。他の病院で受診している場合でも、法人の医師に連絡を入れており何かあれば電話で相談ができるよう連携が図られています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての方針を契約時に説明し同意を得ています。実際に重度化した場合には、早い段階から希望や意向を聞き、支援に繋がっています。医師から多くの選択肢が出され、家族への説明のあと、家族の意思決定を受けて、ホームとして出来る限り受け入れる方向で検討し、方針を共有しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	法人内において権利擁護の研修があり、職員の意識向上が図られています。職員間でも日常的に言葉使いについての配慮を徹底しています。個人情報の記録物は事務所内の書棚に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の利用者同士の会話の中から、利用者の思いを把握し、希望に応じて支援しています。急に髪の毛を染めたい方があったり、新聞を見て行きたいところを提案されたり、何人かが賛同し一緒に出かけるという事も度々あります。法人の受付には、ホームの外出届があり、家族の来訪があったときに対応できるようになっています。		

グループホームえるむ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設する法人施設の管理栄養士の献立をもとにし、季節の食材や庭の収穫物等を利用しながら入居者と共に工夫した食事を作っています。また、盛り付けや後片付けも職員と協力しながら行っています。嫌いなものは代替食に、体調によってはミキサー食にするなど、状況に合わせて対応しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、基本的には1時半ごろから夕方5時過ぎまでとなり出来る限り希望に応じています。デイサービスの日には朝からの入浴に便乗されることもあります。入浴剤の工夫等で一人ひとりゆったりと入浴が楽しめるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の用意や野菜作り、花の水やり、掃除や草取りなど様々な場面があり、一人ひとりの力を生かした支援をホームとして位置付けています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その時々入居者の気持ちに沿って外出が頻繁に行われており、職員はそのことがごく自然で当たり前の支援となっています。花火をしながらお月見をしたりホタル狩りに夕方から出かける事もあります。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はどきもなく、ウッドデッキはベランダに続いて出入りができ、入居者の自由な暮らしへの支援となっています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立ち会いのもとに年二回避難訓練を行い、1度は夜間想定訓練となっており消火器の使用方法についての訓練も行っています。ホームとしてシチュー・クラッカー・雑炊・飲料水などの非常食を備蓄しており、災害時の備えとしています。また、地域で行われる避難訓練にはホームの職員が参加をしたり、地元の消防団との連携を図るために法人主催の納涼大会へ参加して貰っています。		

グループホームえるむ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については個別チェック表に記録をしており、入居者の状態に合わせて量の調整をするなど医師と相談しながら個々に応じた支援がなされています。水分は食事、おやつ、ティータイムなどで補給され、注意を要する利用者については記録されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りのカレンダーに季節の花などの工作がされたり、利用者自作のカーテンが風呂場の入口にかけられたり、工夫された表札が居室の入口に飾られています。リビングの吹き出し窓は解放されて風が通り抜け、玄関から続くベランダへ出ることができ、開放感があります。また、ぐみを枝ごと切って生けたり、つるし柿や玉葱を干したり、その時その時の季節感を味わっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子やテーブル、筆筒やこたつが置かれ、本人の作品がそれぞれの居室に飾られています。希望に応じて畳やカーペットを敷くなど一人ひとりの好みや生活スタイルにあわせた居心地のいいたたずまいになるよう配慮がなされています。		